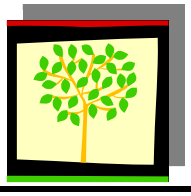
第5回　年少者日本語教育研究フォーラム

【日　時】2015 年 2 月 21 日(土)13:00～17:00
【会　場】早稲田大学･早稲田キャンパス　19号館　509教室
【主　催】「移動する子どもたち」研究会･早稲田こども日本語研究会



【プログラム】

	時　間	内容
	13:00-13:05	「ようこそ！」　川上　郁雄(早稲田大学大学院日本語教育研究科)
		研究発表
(1)	13:05-13:25	**フリースクールの独自教材を活かす日本語支援のあり方** **ー構想から使用までの支援者の意識に着目してー** 藤倉遥（早稲田大学大学院日本語教育研究科修士課程） 本発表では、学齢超過の子どもが通う、あるフリースクールの独自教材の作成過程に注目した。フリースクールに関する議論では、学力保障・制度などの大きな問題がよく取り上げられるが、一人ひとりの支援者がどのような「目指すことばの力」を持って支援をしているかには焦点が当てられてこなかった。そこで、本研究では独自教材の作成過程（構想から使用まで）を、支援者の「目指すことばの力」の具現化過程として捉え、その過程で生じる支援者の悩みを明らかにする。また、支援者の悩みの解決方法として「相互交流アプローチ」を示す。
	13:25-13:35	質疑応答
(2)	13:35-13:55	**ユジノサハリンスク市における学習者による「学びの主体性」の獲得過程** **ー初中等教育機関での日本語学習経験者を対象にー** 竹口智之（立命館アジア太平洋大学言語教育センター） 本発表ではロシア連邦サハリン州ユジノサハリンスク市の初中等教育機関に通学していた Сахалинские Корейцы（韓国系ロシア人）の生徒が、いかに「日本語を学ぶ主体性」を獲得してきたかについて報告する。調査は 3 名（インタビュー時は大学生）を対象に、インタビューを基にしたライフ・ヒストリー法が用いられた。3 名は幼い頃から何らかの形で継続的に日本に関わる文化資産に触れていた。また周囲から付与されるアイデンティティとは別に、学習者は主体的となる過程において、自ら選択的なアイデンティを用いていることが窺えた。
	13:55-14:05	質疑応答
(3)	14:05-14:25	**日本語教育実践者はどのように自らを位置づけたか　ー高等学校での実践を通してー** 金丸巧（関東国際高等学校），秋田美帆（同），大澤不二子（同） 本発表では、学校教育における日本語教育実践者のあり方を探究する。JSL 児童生徒の増加に伴い、学校での日本語教育実践者の必要性が認知されつつある。とはいえ、他教科教員と比べ、位置づけや役割は曖昧である。発表者らも、勤務校においてそのあり方を模索してきた。ここでは、発表者らの振り返りを通して、自らの位置づけ、役割意識の変容の過程に着目し、学校教育における日本語教育実践者のあり方を探求する。
	14:25-14:35	質疑応答
休憩(15 分)		

		特別企画
（1）	14：50-15：50	テーマ：「特別の教育課程」初年度を振り返る 発表者：中川智子　（鈴鹿市教育委員会日本語教育コーディネーター） 人見美佳　（目黒区教育委員会日本語教育コーディネーター） コメンテーター：池上摩希子（早稲田大学大学院日本語教育研究科） ★質疑応答
休憩（10 分）		
（2）	16：00-17：00	テーマ：　JSL 高校生の日本語教育を考える 発表者：大沢利郎　（愛川高校校長） 河上加苗　（白鵬女子高校日本語教育コーディネーター） コメンテーター：金丸　巧　（関東国際高等学校） ★質疑応答
		「また来年会いましょう！」　池上摩希子（早稲田大学大学院日本語教育研究科）
懇親会 （隣の５０８教室）		お茶とお菓子を準備しました。 続けての質疑応答や意見交換等々、いたしましょう。

＊みなさまのご参加をお待ちしております。